



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学大学院教育学研究科
東北大学教育学部

教育が、
国際社会の
羅針盤となる
2021





「教育」を問うことは、
「人間」の成り立ちを問うこと

東北大学
大学院教育学研究科長・教育学部長

八 友 広



研究科長挨拶について
詳しくはコチラ



教育学の新たなステージへ

学びを探究し真のスペシャリストとして

世界へ羽ばたく



教育学部・教育学研究科では、教育というきわめて人間的な事象について、さまざまな視点から研究をおこなっています。長年にわたり、教育学と教育心理学をその両輪としてきましたが、2018年からは、教育情報学との組織統合により、コンピュータをはじめとする情報通信技術と教育との結合についても、研究を開始いたしました。大学院博士課程を有する教育学研究科のなかで、このように情報系の研究者を有する教育学研究科は珍しい存在となっております。

コロナ禍のなかにあつて、大学は現在、全面的にオンラインによる教育をおこなっております。おそらくは、世界中の大学が、同様の事情のなかにあるでしょう。

私たちはいま、人類史上稀にみる経験を蓄積している途上にあるといってもよいでしょう。その反面、近接したコミュニケーションが人間にとっていかに重要であるのかということも、日々痛感させられているところです。空間を超える技術と、人間的な触れ合い、その両方をいかに結合していくのか、そのことが問われているのでしょうか。

教育を問うことは、人間の成り立ちを問うことでもあります。若い皆さんが、この問いの世界に飛び込んで来て下さることを、心から期待しております。



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学大学院教育学研究科
東北大学教育学部

人間の誕生から始まるあらゆる
「教育」を学ぶ。

CONTENTS

5	生涯教育科学コース 教育政策科学コース	11	各種データ
6	グローバル共生教育論コース 教育情報アセスメントコース	12-13	取り組み
7	教育心理学コース 臨床心理学コース	14	学生支援制度の紹介
8-9	在学生インタビュー	15	論文・研究紹介一覧
10	施設紹介	16	教育学部Q&A



生涯教育科学コース

人間の誕生から死にいたるまでのプロセスを研究する手法を学ぶ

持続可能で公正な社会の形成に資するため、生涯にわたる人間形成と教育のあり方について、原理的、巨視的、社会的な視点から深く理解し、知識基盤社会、生涯学習社会に必要な洞察力、企画力、実践力を有する人材を育成することを目的としています。具体的には、教育を「人間形成」のプロセスとして広くとらえ直し、学校という制度化された学びの場のプロセスだけでなく、人間の誕生から死にいたるまでのプロセスを、哲学、歴史、社会学、文化人類学の視点から研究する手法を学ぶことができます。

Faculty Members

甲斐 健人
教授・スポーツ文化論
池尾 恭一
准教授・人間形成史

八鍬 友広
教授・人間形成史
石井山 竜平
准教授・社会教育学

李 仁子
准教授・人間形成論
鷲谷 洋輔
准教授・スポーツ文化論



生涯教育科学コースについて
詳しくはコチラ



教育政策科学コース

政治・経済・社会が複雑に絡み合う課題の解決能力を育成

財政危機や少子高齢化とともに民族・文化の多様化が進む国々では、効率的な資源配分だけでなく異質かつ多様な人びとの公正な処遇という観点からも教育政策を考えていく必要があります。本コースでは、教育社会学、教育行政学及び比較教育学の学問領域を「教育政策科学」という共通の枠組みのもとに統合した教育プログラムを提供することで、上記のような政治・経済・社会が複雑に絡み合う課題の解決に求められる、幅広い視野からの課題発見能力、高度な分析能力及び批判的思考力をバランスよく備えた人材を育成していきます。

Faculty Members

島 一則
教授・教育社会学
井本 佳宏
准教授・比較教育学

福田 亘孝
教授・教育社会学
後藤 武俊
准教授・教育行政学

青木 栄一
准教授・教育行政学



教育政策科学コースについて
詳しくはコチラ





グローバル共生教育論コース

Faculty Members

グローバル化する社会における 新しい教育の実践と研究ができる人材を育成

グローバル化する世界における複合的で多様な課題に対応し、持続可能な社会を構築するための新しい教育のあり方への変容が求められています。本コースでは、学校教育、成人教育、国際教育開発、多文化教育という学際的な観点から、知識伝達型のこれまでの教育を問い直し、価値観の異なる人々と協働しつつ「正解のない」新たな状況に当事者意識を持ち対応できる教育や実践を探究します。本コースでの学びを通し、グローバル化する社会における教育の課題を、ローカルな現場にも立脚しながら重層的に把握し、多様性の尊重、公正、社会正義といった現代社会に求められている価値観や倫理観に基づき分析し、実際的な問題解決に貢献できる専門能力を有する研究者と実践者を育成します。

谷口 和也
准教授・学校教育論

松本 大
准教授・成人教育論

劉 靖
准教授・学校教育論

末松 和子
教授・多文化教育論
(協力講座教員)

高橋 美能
准教授・多文化教育論
(協力講座教員)

渡部 由紀
准教授・多文化教育論
(協力講座教員)



グローバル共生教育論コース
について詳しくはコチラ



教育情報アセスメントコース

Faculty Members

学びのイノベーションを視野に入れ アセスメントの基礎を固める

現代の教育・学習環境のデザインにあたっては、すべての人びとに開かれた学習機会の提供という観点から Information and Communication Technology (ICT) のより発展的かつ有効な導入が求められています。そこでは、ICTを駆使した教育プログラムの開発だけでなく、そのプロセスや効果の検証・アセスメントが重要になってきます。本コースでは、日本社会の成熟化、少子化、価値の多元化が進む知識基盤時代の教育にふさわしい、学びのイノベーションを視野に入れつつ、アセスメントの基礎を固め、客観的なデータ・根拠にもとづいて教育を測定し評価するために必要な専門的能力・スキル・知識を修得した人材を育成していきます。

有本 昌弘
教授・教育評価測定論

熊井 正之
教授・教育情報デザイン論

小嶋 秀樹
教授・教育情報デザイン論

柴山 直
教授・教育評価測定論

渡部 信一
教授・教育情報デザイン論

熊谷 龍一
准教授・教育評価測定論

佐藤 克美
准教授・教育情報デザイン論

中島 平
准教授・教育情報デザイン論

松林 優一郎
准教授・教育評価測定論

倉元 直樹
教授・教育情報デザイン論
(協力講座教員)

宮本 友弘
教授・教育情報デザイン論
(協力講座教員)

佐藤 智子
准教授・教育評価測定論
(協力講座教員)



教育情報アセスメントコース
について詳しくはコチラ





教育心理学コース

教授・学習や人間発達のしくみとその支援ニーズを心理学的観点でとらえる

教育心理学における「教育」とは、広く、人と人がかかわる場面の問題としてとらえることができます。例えば、分数の掛け算につまずく小学生にどのように教えたらよいのか、なぜ中学生の非行発生率は他の世代より高いのか、自閉症スペクトラム障害などのコミュニケーションに困難を抱える子どもたちをどのように支援していけばよいのか、などです。本コースでは、こうした教授・学習や人間発達のしくみ、ならびに発達過程における障害や支援ニーズに対して、心理学的観点から多面的・多角的にとらえ、そのメカニズムを明らかにすることで、その理論および実際の心理的支援や教育的支援を実証的手法により開発できる人材、ならびに心理専門職を養成する人材を育成します。

Faculty Members

工藤 与志文
教授・教授学習心理学

神谷 哲司
准教授・発達心理学

野口 和人
教授・発達障害学

川崎 聡大
准教授・発達障害学

長谷川 真里
教授・発達心理学

深谷 優子
准教授・教授学習心理学



教育心理学コースについて
詳しくはコチラ



臨床心理学コース

心理専門職として 広く社会に貢献できる人材を養成

子どもや成人をめぐる心理社会的問題を見ると、学校における不登校やいじめの問題、度重なる災害による問題、虐待やハラスメントなど家庭や組織での問題など様々な領域で、その深刻さを増しつつあります。本コースでは、様々な領域において心理的問題を擁する方々やその家族に対する援助についての新たな知見を見出す研究者を養成し、また、相談や援助の業務に従事する公認心理師や臨床心理士の受験資格を取得し、心理専門職として、広く社会に貢献できる人材を養成します。

Faculty Members

加藤 道代
教授・臨床心理学

吉田 沙蘭
准教授・臨床心理学

若島 孔文
教授・臨床心理学

大場 麗
助教・臨床心理学

安保 英勇
准教授・臨床心理学

砂川 芽吹
助教・臨床心理学

前田 駿太
准教授・臨床心理学



臨床心理学コースについて
詳しくはコチラ



恵まれた教育環境で、
専門性の高い
教育学を研究できます

教育学部教育学科
教育心理学コース 4年

山形県立米沢興譲館高等学校 出身

高村真希

たかむらまき

INTERVIEW

子供から大人まで幅広く研究対象になる

私はもともと教師志望だったのですが、その理由を突き詰めていくと子供たちに関わりたい、人と人との関係性について知りたいというのが根本にあると気付きました。そこで教育を学問として捉え、行政学や心理学、グローバルな視点など様々な角度や段階からアプローチできる東北大学教育学部に進学することを決めたのです。ここは1年次に幅広い教養を学び、2年次以降徐々に自分の興味関心に絞ってコース選択できるカリキュラムなので、時間をかけて学んでから確信的に専攻を選ぶことができます。

現在私は教育心理学コースに所属し、「親子関係」をテーマに

卒業論文の準備中です。発達分野の研究対象は子どもに限らず、私たち学生も含めた成人期以降も対象になる点が面白いと感じます。さらに学内には留学生や社会人も多いので、多様性のある意見が聞けますし、何より学習意欲の高い友人が多くて刺激になっています。

権威ある先生方の授業が受けられたり豊富な専門書を取り寄せることができたりと、人にも物にも恵まれた環境であることも入学して良かったと感じる点です。ここは幅広い視点と高い専門性をもって、人間の生き方について探究することができる他にはない学部だと思います。

教育学部生の Campus Life



フェンシング部メンバー



天気の良い日は学食のテラスでランチやお茶をすることも



高村さんのある日のスケジュール

7:00	8:00	9:00	10:30	12:00	13:00	16:30	19:00	21:00	22:30	24:00
起床	通学	学部自習室で授業の予習	グループ発表の練習	ランチ	教育心理学実験のグループ発表	教育心理学コースの授業	フェンシング部活	部活メンバーと夕食	帰宅	明日の準備をして就寝



ここに**内定**しました！

内定先

アステラス製薬株式会社

製薬会社のMR職として内定をいただいています。教育学を通して学んできた心理学やコミュニケーションについての知識を活かし、医療従事者の方々やその先にいる患者様、ご家族の気持ちに寄り添った仕事をしていきたいと思っています。



図書室 Library

研究棟6階に位置する教育学部の図書室は、フロアの半分ほどを占める広さを有しており、専門スタッフ2名が配置されています。閲覧用の大きなテーブルと椅子、キャレル、コピー機、図書検索用のパソコンなどが備えられています。教育関連の専門書、雑誌、大学紀要など1万冊近くの蔵書が、開架式の書棚と12連の電動集密書架に所蔵されており、学生や教職員の教育・研究に大きな役割を果たしています。

詳しくはこちら



コンピュータ実習室 Computer Room

コンピュータ実習室には、コンピュータ30台とプリンタ3台が設置されており、各コンピュータにはワープロや表計算などの基本的なソフトをはじめ、4種類のデータ解析ソフトがインストールされています。室内にはソフトの使用法やデータ解析を学ぶためのテキストも備え付けられていて、授業や講習会などに利用されるとともに、学生が研究や学習をすすめるために活用しています。

詳しくはこちら



実験室 Laboratory

学習(人間が学び理解するメカニズム)に関する各種実験、認知(種々の感覚に基づく人間の情報処理)に関する各種実験、脳波等の生理心理学検査と聴力測定、各種の個別心理検査、集団間の相互作用の様子についての行動観察などをすすめるための施設です。また、これらの観察記録や分析のためのシステムも整っています。

詳しくはこちら



リフレッシュルーム Refresh Room

学生の自己学習を促す、本研究科独自の施設です。各フロアに1箇所ずつ設置され、単なる学生の休息や雑談の場ではなく、自主ゼミや研究会などに使える施設となっています。眺望の良い明るい部屋には、ソファコーナーのほかに、ミーティングテーブル、プレゼンテーション用のモニタ、ホワイトボードなどが設置され、学生はいつでも自由に使用できるようになっています。

東北大学教育学部でとれる資格

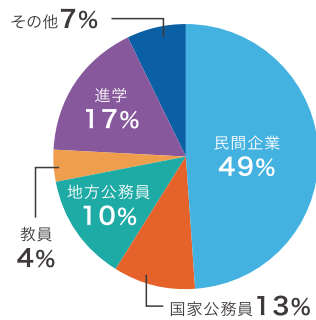
- 教員免許状(一種)
中学校(社会)、高等学校(公民)
※ただし他学部の授業との組み合わせで他の教科の免許状を取得することができる
- 社会教育主事
※任用資格、社会教育士(称号)
- 学芸員
※文学部の科目を履修する必要あり
- 公認心理師
※一部、文学部の科目を履修する必要あり
※ただし「受験資格を得る」だけで試験を受ける必要がある



教育学部 進路
詳しくはコチラ



令和元年度 学部卒業生の進路



公務員・教員(約27%)

文部科学省、厚生労働省、総務省、仙台高等裁判所、宮城労働局、仙台地方検察庁、東北財務局、宮城県庁、新潟県庁、愛媛県庁、仙台市役所、栃木県(高等学校)、群馬県(中学校)、仙台市(特別支援学校)

企業(約49%)

三菱電機株式会社、川崎重工業株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、資生堂、株式会社ニトリ、株式会社みずほフィナンシャルグループ、日本放送協会、七十七銀行、八十二銀行、東日本旅客鉄道株式会社、日鉄エンジニアリング株式会社、福島民報社、いすゞ自動車株式会社

大学院進学(約17%)

東北大学大学院教育学研究科、東北大学大学院公共政策研究科、東京大学大学院教育学研究科、新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科

東北大学大学院教育学研究科でとれる受験資格

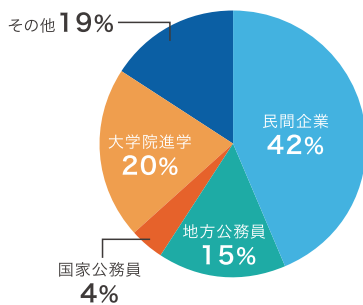
- 公認心理師
 - 臨床心理士
 - 臨床発達心理士
- ※ただし「受験資格を得る」だけで試験を受ける必要がある



教育学研究科 進路
詳しくはコチラ



令和元年度 大学院(修士)修了生の進路



公務員(約19%)

法務省、厚生労働省、山形県庁、宮城県教職員

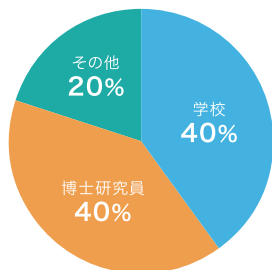
企業(約42%)

株式会社ALBERT、石巻赤十字病院、NTT西日本株式会社、シチズンファインデバイス株式会社、JBCC ホールディングス株式会社、株式会社東芝、日本放送協会(NHK)、日本郵便株式会社、富士通株式会社、星ヶ丘病院、みずほ証券株式会社、三井物産株式会社、東北大学

大学院進学(約20%)

東北大学大学院教育学研究科、北海道大学大学院教育学研究科

令和元年度 大学院(博士)修了生の進路



学校(約40%)

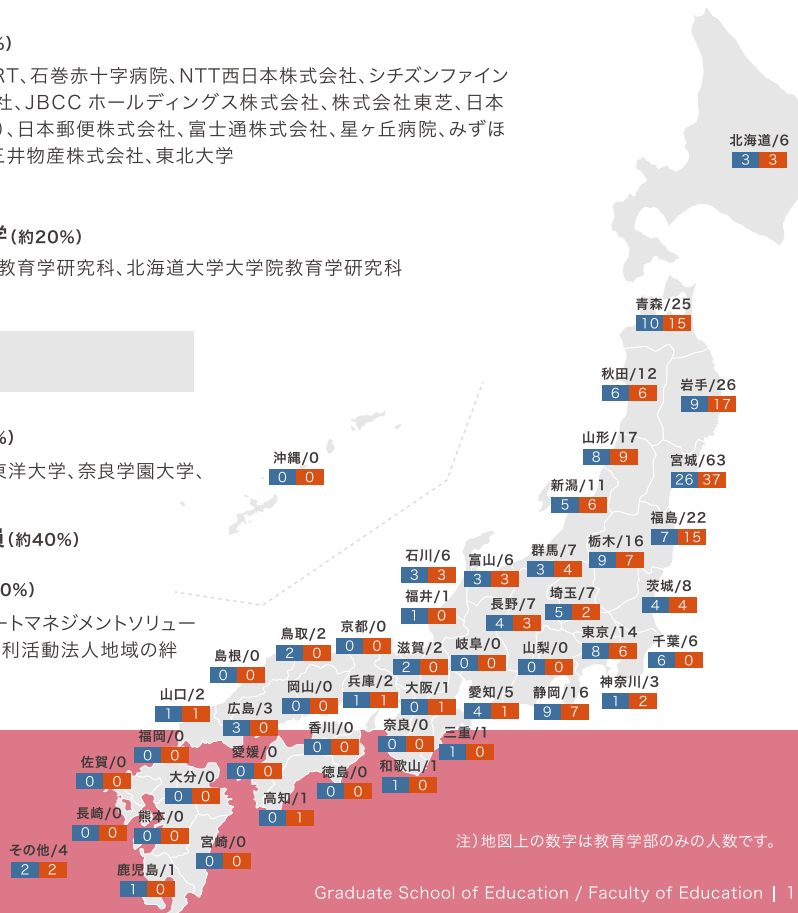
東北福祉大学、東洋大学、奈良学園大学、岩手県立大学

博士研究員(約40%)

株式会社リクルートマネジメントソリューションズ、特定非営利活動法人地域の絆

その他(約20%)

株式会社リクルートマネジメントソリューションズ、特定非営利活動法人地域の絆



注) 地図上の数字は教育学部のみ的人数です。

教育学研究科
教育学部の在学者数
(2020年5月1日 現在)

	男性	女性	合計
教育学部	148名	156名	304名
教育学研究科 前期課程	37名	47名	84名
教育学研究科 後期課程	39名	30名	69名

先端教育研究実践センター

先端教育研究実践センターは、社会的に重要な教育課題について、より機動的に対応するとともに、プロジェクトへの参加を通して学生の研究力・実践力を高めることのできる組織です。

「重点研究プロジェクト部門」「地域教育支援部門」「国際交流支援室」「研究・教育支援部門」の各組織が研究や取り組みを進めています。

STAFF スタッフ

野口 和人
センター長・教授

劉 靖
センター員・准教授

大河 雄一
センター員・助教

内藤 隆史
センター員・助教

安保 英勇
副センター長・准教授

尹 得霞
センター員・助教

ダグワドルジ アデアニヤム
センター員・助教

松本 恵美
センター員・助教



詳しくは
こちら



臨床心理相談室

東北大学大学院教育学研究科の臨床心理相談室は、公認心理師・臨床心理士の資格を持つ教育学研究科の教員の監督・指導の下に、臨床心理学コースで専門の訓練を受けている大学院生が相談を担当します。相談室では、学校生活のこと、性格のこと、家族や夫婦関係について、職業や将来のことについて地域の方々の幅広いご相談に応じます。

STAFF スタッフ

安保 英勇 室長・准教授

加藤 道代 教授

吉田 沙蘭 准教授

砂川 芽吹 助教

若島 孔文 副室長・教授

前田 駿太 准教授

大場 麗 助教



詳しくは
こちら



震災子ども支援室(S-チル)

2021年3月末終了

東日本大震災で親や大切な人を亡くした子どもたちへの長期的な支援を目的に開設された「震災子ども支援室“S-チル”」は、2021年3月末をもって活動を終了いたします。これまでの活動に際しまして多大なるご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございました。

開室から10年間、自治体や関連機関・団体と連携しながら支援ニーズを探り、心のケアの専門家による子ども達への支援や、里親になられた保護者のみなさまへの支援などをおこなってまいりました。

国際シンポジウム・提携校

グローバルな研究活動が求められている東北大学は、海外の著名大学の研究者との共同研究や研究交流が求められています。そのような交流を推進するために、東北大学は、2020年5月現在で世界248大学や機関と大学レベルでの交流協定を締結しており、さらに東北大学の単数もしくは複数の部局（研究科や研究所）が独自に477か所の海外の大学や機関と部局間協定を結んでいます。

教育学部（教育学研究科）で言えば、以下の19の大学・機関と部局間協定を結び、活発な研究交流や学生の相互派遣を行っています。



大学・機関と部局間協定先一覧

- ロンドン大学インスティテュート・オブ・エデュケーション
- 北京大学日本研究センター
- 明知大学校社会教育大学院
- ヨーク大学教育学部
- 国立台東大学師範学院
- 又松（ウソン）大学校保健福祉学部
- 南京師範大学教育科学学院
- 国立台湾師範大学教育学院
- 高麗大学校師範大学
- 国立政治大学教育学院
- 杭州師範大学教育科学学院
- 北京師範大学教育学部
- 南京師範大学心理学院
- 華東師範大学教育学部
- 華東師範大学心理与認知科学学院
- ソウル国立大学校師範大学
- 東北師範大学教育学部
- 国立インドネシア教育大学教育学部・大学院研究科
- UNESCO バンコク事務所

AEL COURSE

AELはAsia Education Leaderの略で、アジア、特に東アジアにおける教育課題に対応できる国際的視野をもった指導的人材の育成を目指す国際共同教育プログラムです。2019年は本研究科が幹事校となり開催されました。



今後は10年間の活動データを総括し、次の世代へ震災の記憶・記録が繋がるようバトンを渡していきたいと思えます。

STAFF スタッフ（2021年3月時点）

- 加藤 道代**（室長）
東北大学大学院教育学研究科 教授 公認心理師・臨床心理士
- 一條 玲香**（研究員）
公認心理師・臨床心理士
- 押野 晶子**（相談員）
保健師・看護師
- 亀倉 大地**（相談員）
公認心理士・臨床心理士
- 嶺岸 真琴**（事務員）

主な活動内容

- 個別相談（電話相談、来所・訪問相談）
- 親族里親サロン運営
- 遺児・孤児対象学習支援
- 心理士派遣事業
- シンポジウム開催
- 支援サービスなどの情報提供
- 調査・研究など



里親による子育ての声をまとめた冊子



学生支援制度の紹介



● 各種奨学金制度

経済的な応援が心と暮らしをいきいきと豊かにします。

詳しくは
こちら ▶



■ 奨学金制度

優秀な学生のために、日本学生支援機構による奨学金(第一種・無利子、第二種・有利子)の貸与があるほか、令和2年度からは修学支援新制度により学部学生を対象とした給付型奨学金が始まりました。その他、地方公共団体・民間奨学金団体による奨学金の貸与や給付の制度があります。経済面のしっかりした支援体制で、研究者養成を助けます。どの奨学金も学業成績の優秀な学生、そして経済的理由で修学困難な学生に資格が与えられます。学生生活を円滑に送るため、大切なライフプランニングに役立てることができます。

■ 授業料免除制度

経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、その他、突発的災害等やむを得ない事情があると認められた場合には、授業料の全額、3分の2の額、半額又は3分の1の額を免除する制度があります。

● TA・RA制度

未来の教育指導者、若手研究者をしっかりとサポートします。

■ TA(ティーチング・アシスタント)

TA制度は、教育学部・博士課程前期2年の課程の授業をアシストするシステムです。成績優秀な大学院生が担当し、手当(時間給)が支給されます。学生を教育指導できる実践トレーニングの経験としてのメリットに加え、この体験は現実世界と理論とを融合させる格好の機会にもなります。

■ RA(リサーチ・アシスタント)

RA制度は、博士課程の大学院生が研究科の研究プロジェクトに参画し、研究に必要な補助を行うシステムです。資格は博士後期3年の課程に在籍する優秀な学生に与えられ、手当(時間給)が支給されます。教員とマンツーマンで、研究の進め方や理論構築のノウハウなどを吸収できます。大学側の研究支援体制を強化するとともに、若手研究者の養成をサポートする充実した内容となっています。

● 日本学術振興会特別研究員制度

創造性豊かな研究者養成のために研究奨励金を支給します。

大学院博士課程在学者及び修了者などで優れた研究能力を備え、大学その他の研究機関で研究することを希望する研究者を「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給する制度です。

特別研究員になると、主体的に研究課題や研究の場などを選びながら、研究に専念する機会を持つことができます。わが国の学術研究の将来を担う、創造性に富む研究者の養成を目的としています。

● 博士研究員制度

就職前のポストクの研究環境を保障します。

博士研究員は、教育学研究科又は教育情報学教育部の博士課程3年の課程を修了した者を対象に研究者としての地位を保障する制度です。博士研究員は、授業料を払わずに本学の施設・設備の使用、指導教員による指導を受けることができ、さらに本学の研究者としてさまざまな研究費に独自に応募することができます。

● 東北大学学際高等研究教育院制度

新領域を創造する若手研究者を支援します。

東北大学学際高等研究教育院とは、既存の研究科・教育部の枠にとらわれず、新しいタイプの異分野融合からなる新領域の学際的研究を創造し、世界トップレベルの研究者を目指す若手研究者養成のための、東北大学独自の支援組織です。奨学金支給、論文投稿諸費用や学会、国際会議出席費用等の各種支援を受けられるほか、研究計画に見合った研究費や研究環境又は国際インターンシップのための助成、ポストクの雇用等の支援事業を行っています。

また、教育学研究科に所属しながら「修士研究教育院生」「博士研究教育院生」に採用されることで、奨学金や研究費の助成が受けられます。

● 長期履修制度

個々の事情にもとづいた修業年限の設定が可能です。

長期履修制度は、職業に従事している等の個人的事情により修学に専念できない大学院生を対象に、標準修業年限(前期課程2年・後期課程3年)を超えて在学することを認めるシステムです。授業料も標準修業年限分の納入額のみとなります。この制度は、より多くの人びとに大学院教育の機会を提供することがねらいです。



令和元年度 博士論文

- モンゴルにおける公的ノンフォーマル教育に関する実証的研究
- 大村はまにおける単元学習論の構成原理の解明
- 演劇による自己変容のプロセスに関する成人教育学的研究
- 地域社会の構築とソーシャルワーカーの役割 -NPOに雇用されているソーシャルワーカーがその可能性を切りひらく-
- ノンフォーマル教育への参加と成人教育研究
- Enhancing Empowerment for Women through Education: A Study Exploring the Link between Non-formal and Formal Education in Indian Context (教育を通じた女性のエンパワーメント：インドにおけるノンフォーマルとフォーマル教育の結びつきの解明)
- 奨学金が大学生の経済活動及び生活時間配分に与える影響に関する実証的研究 -プロペンシティスコアマッチングによる検証-
- 教育分野における地方政府の財政行動メカニズム -2000年代以降の学校統廃合を事例として-
- 児童期における漢字書字正確性に関する神経心理学的検討 -学力や視覚情報処理能力との関係性の観点から-
- 解決志向短期療法の効果に関する研究 -セルフケアツールの開発-
- 多次元項目反応モデルにもとづく学力テストデータの構造分析

令和元年度 修士論文(抜粋)

- 中学生における補正による大数の法則の認識が確率の誤った認識に与える影響 -「小数の法則」と「確率と割合の混同」に注目して-
- 延辺朝鮮族留守児童の教育問題に関する研究 -延吉市の例を中心に-
- 大学進学に係る情報の不均一性に関する実証的研究
- 学校の指導が学力に及ぼす効果 -全国学力・学習状況調査宮城県データの二次分析を通して-
- ARヘッドセットを用いた聴覚障害者を対象とした字幕式コミュニケーション支援の課題と展望
- 探究的な学習の充実を目指して検討したSTEAM教育の適用可能性 -職業能力の養成を目標とした日本の高等学校を例に挙げて-
- 学習者の学びを教師の振り返りに活用するための計量テキスト分析
- バレーボールのサーブプレシープにおける視線の特性
- 震災記憶を循環的に未来へ伝える試み -文学的手法の有効性と若者が主体になる伝承の可能性-
- 大学進学における進路選択プロセスに関する研究
- 幼児期における謝罪に対する被害者の反応の発達的变化 -怒りの情動と許容行動に着目して-
- 親の離婚を経験した子どもへのサポートに関する研究 -子どもが知覚した周囲からのサポートに着目して-
- デートDV被害者が必要とする支援についての研究 -被害の精神的深刻さに着目して-
- 中学生の不登校傾向に関する研究 -学級集団に対する意識、学校生活の悩みに着目して-
- 不妊治療と仕事の両立を可能にする要因の検討 -精神的負担とコーピングに着目して-

博士論文・修士論文
についてはこちら



令和元年度 卒業研究(抜粋)

- 高大接続改革がもたらす高校教育の変容 -大学入学共通テストにおける英語民間試験導入に着目して-
- 小学校教員の英語教育不安に関する研究
- 評価領域における評価者の属性の違い及び状態承認欲求による妬みの差異
- 高校の進路指導における受験指導の位置づけについて
- 臨床心理分野における自然言語処理技術の応用の検討 -解決志向短期療法に注目して-
- サードプレイスとしての公園に関する研究 -利用者同士の関係性に着目して-
- 通俗的心理テストが被験者に及ぼす影響についての考察
- 食による気晴らし行為と孤食傾向が摂食障害傾向に与える影響に関する研究
- 大学におけるキャリア教育の現状と課題 -東北大学を事例として-
- 都道府県レベルのキャリア教育政策の展開上の課題 -秋田わか杉「キャリアノート」の開発・普及過程に着目して-
- ASD傾向が道徳的判断と文章理解方略に与える影響
- 大学生における家族内呼称の使い分けと家族構造の関連について
- 手書き文字に対する自己評価と完全主義傾向がノートテイキングの動機づけに与える効果
- 「学校支援人材」になるということ -まなびのたねネットワークを事例に-
- 名門大学における男女比に関する日米比較研究
- 夜間中学についての研究 -仙台自主夜間中学を事例として-
- 検証法による象徴事例の提示が誤ルールの修正に及ぼす影響
- 対人葛藤場面における深刻度が幼児の問題解決方略に及ぼす影響

卒業研究
についてはこちら



Q1 東北大学の教育学部ってどんなところ？

A1 普通に「教育学部」と聞くと「先生になるための勉強をするところ」と考えますよね。もちろん、東北大学の教育学部を卒業して先生になる人もいます。でも、「教育」は学校にいる間だけの現象なのでしょうか。東北大学の教育学部は、教員養成を主眼とする教育学部とは異なり、人間の誕生から一生涯にわたるすべての教育を研究の対象としています。例えば、家庭での親子の関係、子どもが心と体を発達させていく過程、社会に出てからの地域や企業での学び、子どもだけでなくすべての世代が直面する心の問題や老いの問題、障害を持つ人々、そしてこれら教育の問題にどのような対処するかを行政や社会全体の問題として考える。このすべてが教育学の研究対象なのです。

Q2 東北大学の教育学部に入ったらどのように学ぶのですか？

A2 東北大学の教育学部に入学したら、まず、学問の基盤や幅広い専門的教養を身につけるために他学部の学生と一緒に一連の「全学教育科目」を学びます。それと同時に、教育学部生共通の知識や研究方法の基礎を身につけるために「学部共通科目」を学んでいきます。学年が進むと、高校時代に理系や文系のコースに分かれたように、「教育学コース」「教育心理学コース」に分かれ、各専門分野の講義をまんべんなく履修することで教育学部生としての幅広い教養を身につけながらも、履修モデルに従って将来研究する専門領域の知見を深めていきます。さらに大学生活後半になると、希望する指導教員を選び、卒業研究に向けて「研究指導」を受けることになります。この段階では、自分の研究する領域に関わる講義や演習を受けながら、自分の興味・関心のある研究テーマについての研究を深めていきます。4年生になると卒業研究が中心となり、自分がこれまで進めてきた研究を「卒業研究」としてまとめます。

Q3 東北大学の教育学部を卒業した後の進路はどのようになっていますか？

A3 教員養成を主眼とする教育学部を卒業した学生さんの多くは、教員採用試験を受けて教員になることを目指している方が多いようです。東北大学の教育学部にも教員を目指して実際に先生になっている人も多くいます。しかしながら、東北大学の教育学部からは、先生になるだけでなく文部科学省や都道府県、市の職員となって行政の立場から教育に関わっていくとする学生さんもたくさんいます。その他に、教育に関わる民間企業だけでなく、金融や情報通信に関わる民間企業に就職する人も多くいます。このように学部を卒業して就職するだけでなく、少なからぬ学生さんが大学院に進学して学びを継続させています。東北大学は全国でも有数の「大学院大学」で、多くの大学院生が盛んな研究をしています。学部からの進学組だけでなく、他の有名大学からの進学組、社会で教育に関わる仕事をされているプロフェッショナル、大学や中学・高校の先生方も「大学院生」となって若いみなさんと一緒に学び研究をしています。みなさんが就きたいと思う仕事の中には、例えば臨床心理士や公認心理師などは大学や大学院で学ばないと挑戦できない資格などもあります。学校の先生になる場合でも、大学院まで学べば「専修免許状」という特別の教員免許状を得ることができます。高校生のみなさんも、せっかく東北大学に興味があれば、大学院進学のこと調べてみましょう。

Q4 なぜ、地元の大学ではなく東北大学の教育学部を勧めるのですか？

A4 高校生のみなさんは、今はまだ「偏差値」や「通いやすさ」で大学を選んでいる最中かもしれません。しかし国立大学には、それぞれの特性に応じた役割があたえられています。地域に密着して社会に貢献している大学、特定の分野に強みがあって世界と勝負している大学など、高校生のみなさんから見たら同じ「国立大学」で、自分たちはそこに入学して「勉強」するだけだと考えがちです。でも、入学後に、みなさんが活躍したり貢献したりできる方法は、大学に与えられた役割によってずいぶん異なってきます。東北大学は、すべての分野で世界的な活躍を期待されています。もちろん、教育学部もその役割の一端を担っています。どの国立大学の役割も尊いですが、もし、みなさんが社会全体の中での教育を考えたり、世界のひと協力して仕事をしたりしたいと考えているのなら、東北大学教育学部で私たちと一緒に研究したり活躍したりする大学生活はいかがでしょうか。



TOHOKU
UNIVERSITY
2021

東北大学大学院教育学研究科
東北大学教育学部

〒980-8576 仙台市青葉区川内27番1号
TEL : 022(795)6105
URL : <https://www.sed.tohoku.ac.jp/>



詳しくは
こちら ▶

